

令和5年度緑の基金事業計画

(第40年度)

令和5年4月1日から
令和6年3月31日まで

I 森林、林業の啓発と緑化事業

森林や緑は、地球温暖化の防止、局地的豪雨の頻発等に対応した山地災害の防止、生物多様性や景観の保全、環境教育や森林セラピー等による健康づくりの場としての利用、緑豊かで潤いのある日常生活環境の確保など多様な機能を持っており、国民が安全で安心して暮らすことのできるようそれら機能を十分に発揮し得る森林・緑づくりとともに、近年、国の内外で取組みが進められているSDGs(持続可能な開発目標)の達成が求められています。

このため、健全な森林づくり、森林・林業の再生、緑豊かな生活環境づくり等について、県民に正しく理解してもらい、参加を促すための様々な取組みが必要です。

「長野県ふるさとの森林づくり条例」に沿って、行政、NPO、地域住民との様々な形での協働を通じて多くの県民の参加を得ながら、地域の実情やニーズにあった森林の整備や身近な生活環境の緑化等に関する実践的活動に重点をおいて事業の推進に努めることで、SDGsの達成にも貢献してまいります。

なお、事業を推進するに当たっては、引続き新型コロナウイルスの感染状況に注視しつつ、コロナの分類が5類に移行した場合は、それに合わせた対応を講じた上で実施することとします。

1 情報誌等による広報、普及宣伝

森林・林業及び環境緑化に対する県民の更なる理解を深めるため、次の事業を実施する。

(1) 情報誌の発行等

ア 情報誌の発行等

基金業務、森林・林業及び環境緑化等について、県民の理解を深めるため、4月の緑化シーズンに併せて緑化キャンペーンを行うほか、新聞広告、機関誌の発行、その他参考資料の配布を行う。

基金事業の森林教室の告知広告の実施 5月

機関誌の発行予定 9月～10月 3,000部

国土緑化推進機構 広報誌(グリーンモア)の配布 年4回
緑化推進団体・関連機関外 820部

イ 緑の情報サービスの推進(ホームページによる情報発信)

当基金が関わる各種行事、森と水の絵本のPR、緑の募金公募事業の実施状況、募金の使途報告など、ホームページを用いて情報を発信し、広く県民の森林づくりや環境緑化への実践参加を促進する。

また、ホームページの見直しを検討し、各地区緑化推進団体の情報もリアルタイムで掲載できるよう充実を図る。

ウ 森林と水をテーマにした絵本づくり

子どもたちがふるさとの森林と川と人との関わりについて、思いを深めることができるようにとシリーズ化している絵本「木が伝えてくれる物語」の第9作目（森のくまさん 第4弾）を令和4年度中に完成・発刊したが、その続編となる第10作目（第9作目と同じ舞台）の調査・取材等の発刊準備を行う。

また、既に発刊した第3作目「うえんじいさまのき」は在庫がない状態のため、令和5年度中に復刻版を発刊する。

2 県民の集い等の開催

（1）長野県植樹祭の開催

豊かな県土の基盤である森林・緑に対する県民的理解を深めるために、各地で分散開催する県植樹祭を長野県等と共催する。

（2）森林教室の開催

「信州 山の日」（7月の第4日曜日）にあわせて、一般県民参加者を募集して森林教室（自然観察会）を開催し、県民が自然に触れ親しみつつ森林・林業に関する知識や理解を深めるよう支援する。

（3）地区緑化推進団体による森林の感謝祭などの開催

緑と水の森林ファンド事業（国土緑化推進機構事業）の助成を受け、地区緑化推進団体の実情に即し、森林の感謝祭、植・育樹などの体験型行事等を実施する。

3 講演会の開催等

（1）緑に親しむ集い

樹木観察や木の実を使った工作など様々なふれあい体験を通じ、県民が森林や森林の恵みに親しむとともに関心を深めることができるよう、県林業総合センターの体験学習施設と共催で、定期的に森林整備作業、自然観察などを取り入れた様々な体験型の集いを開催する。

（2）森林フォーラム

身近な里山の森林整備を推進するため、「森林フォーラム」を長野県、林業関係団体等と共催して実施する。

4 森林づくり等実践参加の促進

（1）林業関係等コンクールの開催

林業関係等コンクールを長野県、林業関係団体等と共催で実施し、健全な森林づくりや環境緑化等に係る様々な活動や成果を顕彰し、県民の実践参加を促進する。

ア 長野県ふるさとの森林づくり賞及び長野県林業関係ポスターコンクールの開催

森林づくり、森林環境教育などに優れた功績があった方の顕彰や小・中学校、高等学校の児童・生徒への環境緑化思想及び野生鳥類の保護思想の高揚を図るためのコンクールを長野県、林業関係団体と共催で実施する。

イ 木工工作コンクールの開催

小・中・特別支援学校の児童・生徒が木に触れあい木を身近に感じ愛着を持ちながら森林の大切さや役割を学び木の文化を大切にする心を育てるため、身近な木材を活かして自由な発想で創作した木工工作作品のコンクールを長野県木材青壮年団体連合会と共催で実施する。

(2) 森林環境教育指導者研修会の開催

子どもたちが自然に親しみつつ森林の役割や森林づくりの重要性などについて体験的に学習できるよう、長野県の森林の現状をはじめ、森林環境教育に関する知識や森林に親しみながら理解する手法等の研修会を教育指導者である教職員を対象に開催し、それらの習得を支援する。

なお、令和4年度中に制作した、食環境教育をメインテーマとしたオリジナルカルタは、今後研修会の教材としての活用を検討していく。

5 都市緑化等の環境整備

(1) 学校環境緑化モデル事業 [国土緑化推進機構・直接事業]

学校環境の緑化を通じて、青少年への森林環境教育を推進することを目的に、小中学校敷地内及び周辺的环境緑化、環境教育のフィールドの整備（樹木の植栽・芝生化、樹木の手入れ、ピオトープ等）の取り組みに対し助成する。（助成金額上限50万円）

令和5年度の申請校 ・上松町立上松小学校 ・伊那市立伊那西小学校 ・長野県長野盲学校

(2) 学校林を活用した森林環境教育促進事業 [国土緑化推進機構・直接事業]

学校林を活用して、小中学校の森林環境教育（林業体験活動を含む）を促進するため、森林環境教育を学校と連携して行う団体等に対し助成する。（助成金額上限30万円）

令和5年度の申請校 該当なし

(3) 緑の少年団活動促進事業 [国土緑化推進機構・直接事業]

地域単位で活動している緑の少年団等を主な対象として、学習活動等の充実・促進、指導体制の整備、育成会の結成の促進に対し助成する。（助成金額上限30万円）

令和5年度の申請校 該当なし

(4) 子どもたちの未来の森づくり事業 [国土緑化推進機構・直接事業]

未来の子供たちに豊かな国土を引き継ぐために、小中学生の「森の学び」を支援するとともに、森林環境教育のフィールドとしての地域のシンボルとなる森づくりの取り組みに対し助成する。（助成金額上限100万円）

(5) 次世代の森林づくりを担う人材育成事業 [国土緑化推進機構・直接事業]

高校生、大学生などの若者が、森林や樹木を保全し増やしていく活動に参加することにより、将来の森づくりのリーダーを育てていくことをめざす取り組みに対し助成する。(助成金額上限 200 万円)

(6) スギ等森林の有効活用支援事業 [国土緑化推進機構・直接事業]

花粉対策などを含む、未来につなぐ人にやさしい森づくりに貢献し、複数の都道府県にわたるなど広域的な事業効果の波及が期待される活動に対し助成する。(助成金額上限 200 万円)

(7) つながる、つなげる、子ども若者応援事業 [国土緑化推進機構・直接事業]

子どもたちの自然環境への理解や興味関心を広げ、様々な感性や表現力、生きる力の向上、将来の森づくりのリーダーの育成に貢献する、市民団体等による取り組みに対し助成する。(助成金額上限 200 万円)

II 緑の募金事業

「長野県ふるさとの森林づくり条例」の基本理念にある「県民の理解と主体的な参加」を念頭に、緑の募金運動を積極的に展開し、森林づくりとみどりづくりの大切さの普及啓発に努めます。

4月1日から5月31日までの「緑化推進特別強調期間」を中心に緑を守り育てる緑化意識の高揚に努めるとともに、緑の募金への寄附はSDGsに貢献いただくことになる旨を強くアピールしながら、広報等を通じて募金額7,200万円を目標に緑の募金活動を積極的に進めます。

なお、募金活動に当たっては、引続き新型コロナウイルスの感染状況に注視しつつ、コロナの分類が5類に移行した場合は、それに合わせた対応を講じた上で実施することとします。

募金の用途について

- ①地区緑化推進団体への交付金を通じて県内各地区の実情に応じた森林の整備、緑豊かな生活環境づくり、次代を担う子供たちの育成などをさらに進めます。
- ②緑の募金による公募事業を広く周知し、健全な森林づくりや身近なみどりづくり、県産材の利活用、森林環境教育などに係る地域における自発的活動を支援します。
- ③みどりの少年団が行う森林・環境緑化等の学習実践活動を長野県みどりの少年団連盟を通じて促進します。

1 緑の募金活動事業

(1) 緑化推進の啓発宣伝

ア 広告、CM等キャンペーン

緑化思想の普及啓発のため、新聞各社への緑化広告の掲載、ラジオ等によるPRを「緑化推進特別強調期間」中等に実施する。

- ・ 新聞広告掲載 4月1日（読売、朝日、中日、毎日、産経）
地区緑化推進団体名も併せて掲載
- ・ 市町村広報への掲載依頼
- ・ テレビCM 4月1日～5月15日 SBC、NBS、TSB、ABN
- ・ ラジオCM 4月1日～4月14日 AM：信越放送 FM：長野エフエム放送
- ・ 街頭募金 (実施を含め検討中)
- ・ 着胸キャンペーン 4月1日 廃止
- ・ 「長野の林業」（長野県林業普及協会）

募金広告（募金告知、募金用途の紹介等） 7月号、1月号、3月号に掲載予定

イ 緑の相談

県民の緑の保全、緑化木等への理解と関心が深まるよう、身近な緑化樹木の衰弱や病虫害等樹木に関する相談に対して迅速に対応する相談窓口業務を実施し、樹木医等に初期診断を委託する。

なお、診断1回当たりの単価については、市場価格や労務費単価を考慮して、令和5年度から引き上げる。

(2) 募金資材の購入

募金活動の効率的な展開を図るため、緑の羽根、募金箱等の募金資材の購入や募金PRのためのチラシ、家庭募金用封筒の作成等を行う。

(3) 募金活動の推進

令和5年の緑の募金額 7,200万円を目標に緑の募金活動を行う。

特に、「緑化推進特別強調期間」を中心に、チラシ、新聞などを利用し広く緑の募金を呼びかけつつ、家庭募金、企業募金、職場募金、街頭募金などの募金活動を県・市町村等行政機関、地区緑化推進団体、みどりの少年団等と連携して展開する。

また、当基金と地区緑化推進団体が一体となって、スポーツ団体関連募金活動を展開する。

さらに、近年の家庭募金減少傾向の対策として、企業募金の新規開拓を図っていくこととし、令和3年度から始めた長野県SDGs推進企業登録制度に登録された企業への募金依頼を、追加登録企業に拡大するとともに、自動販売機システムでの募金についても業者の拡大を検討していく。

2 公募事業の実施

特定非営利活動法人等緑の募金公募事業の要件を満たす団体が、環境緑化、森林の整備、木材の利活用、野生動物との共生など公益的な活動を推進するために行う事業を公募し、内容を審査の上、交付金を交付する。

近年のコロナ禍にも拘らず、コロナ前の事業活動に戻りつつある中で、様々な団体の環境緑化、森林整備等の活動を支援する受け皿を充実させるため、令和5年度から事業予算枠及び1件当たりの助成金上限額を引き上げる。

3 緑化の推進等

(1) 森林の整備

森林整備についての県民の意識の向上と理解を深めるため、植栽、下刈、除間伐などの森林整備に要する苗木・作業用具の購入、指導者の謝金、傷害保険等の経費に対して助成する。

(2) 森林整備講演会・研修会等の開催

森林づくりの重要性、地球温暖化防止に係る森林の役割等の周知を図るため、各地区で行われる講演会・研修会の開催に要する経費、山火事防止の広報活動、松くい虫予防活動等に助成する。

(3) 公園等公共施設の緑化

ア 学校緑化

学校内環境の緑化、学校林の整備等のため、苗木購入、作業用具購入、指導者謝金等の経費を助成する。

イ 公園等公共施設の緑化

公園、公民館、福祉施設等の公共施設の環境緑化を図るための苗木購入、作業用具購入、指導者謝金等の経費を助成する。

(4) 苗木の配布

生活環境の緑化や緑に関心を持ってもらうことを促進するため、緑化木頒布会の苗木等の購入の経費を助成する。

(5) 植樹・育樹祭等行事

森林を守り育てる意識の高揚等を図ることを目的に地区緑化推進団体や市町村等で行う植樹・育樹祭等行事の開催の経費を助成する。

(6) コンクール・表彰等

森林・林業のPR及び緑化思想の普及啓発を図るための各種コンクール及び緑化功労者の表彰式等の開催に係る経費を助成する。

(7) 令和元年東日本台風等災害支援事業〔国土緑化推進機構・直接事業用途限定募金活用〕

令和元年台風19号で災害に遭った長野市の小学校に植樹や木製遊具等を寄付し、被災地の復旧・復興に向け緑化等を通じて支援する。

4 みどりの少年団育成

次代を担う少年たちが、自然とのふれあいを通じて、森林・林業の重要性を理解し、緑を愛し育てる心を養い、人間性豊かな健康で明るく育つよう、県内のみどりの少年団が行う森林・環境緑化等の学習実践活動について、長野県みどりの少年団連盟を通じて交付するほか、地区事業として実施する実践活動に交付金を交付する。

また、連盟が開催する全県交流集会を共催する。

なお、連盟では、コロナ禍であっても少年団活動ができるよう、令和3年度に出前講座を開設し、令和5年度も引き続き、学習実践活動の機会を確保するよう支援を行うとともに、連盟の設立から30周年となることから、記念誌を作成する。